

板柳町まち・ひと・しごと創生
総合戦略

平成27年9月
板柳町

目次

第1章 「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要

「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要

1 「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定の趣旨	1
2 「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の位置づけと対象期間	2
3 「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進	2
4 PDCAサイクルの確立	2

第2章 政策分野と基本目標

1 にぎわいに満ちたまちづくり（社会減対策）	
（1）未来につなげる産業づくり	3
（2）住みたいと思えるまちづくり	3
2 元気いっぱいのもちづくり（自然減対策）	
（1）地域で支える家族づくり	4
（2）みんなで取り組む健康づくり	4

第3章 政策パッケージ

1 未来につなげる産業づくり	
（1）農業の持続的な発展	5
（2）地域の元気としごとづくり	6
2 住みたいと思えるまちづくり	
（1）人材の還流・定着の促進	7
（2）防犯・防災対策の推進	8
（3）快適な生活環境の推進	9
3 地域で支える家族づくり	
（1）結婚・妊娠・出産・子育てサポート	10
（2）人材育成及び確保	11
（3）ワーク・ライフ・バランスの推進	12
4 みんなで取り組む健康づくり	
（1）健やかな生活の推進	13
（2）スポーツを通じた健康づくりの推進	14
（3）健康長寿の推進	15

資料

I アンケート調査

（1）調査の概要	16
（2）一般対象の調査結果抜粋	17
（3）高校生対象の調査結果抜粋	22

II 意見交換会

（1）意見交換会の概要	24
（2）意見交換会のまとめ	25

第1章 「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要

1 「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定の趣旨

我が国では、2008年をピークに人口減少が始まっており、2010年に1億2,806万人であった総人口が、2048年には1億人を割って9,913万人となり、2060年には8,674万人程度まで減少すると推計されています。

町においても、1955年をピークに人口減少が始まっており、2010年に15,227人であった総人口が、2040年には10,000人を割って9,084人となり、2060年には5,719人まで減少すると推計されています。

この人口減少の大きな要因の一つは、地方と首都圏等の経済格差により地方の若い世代が、首都圏等へ流出していることです。

そして、こうした人口移動は、厳しい住宅事情や子育て環境などから、地方に比べてより低い出生率にとどまっている首都圏等に若い世代が集中することによって、日本全体としての人口減少に結び付いていると言われてしています。

一方、地方では労働力人口の減少や消費の低迷といった地方経済への影響のみならず、耕作放棄地や空家の増加等、悪影響を与えています。

こうした状況のなか、国においては、平成26年12月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、同年12月には人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と今後5か年の政府の施策の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定しました。

町においても、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という悪循環を断ち切るため、町民をはじめ地域一体となって問題意識を共有し、人口減少の克服と町の創生に取り組むため、地域の実情に応じた今後5か年の施策の方向を提示する「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

2 「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の位置づけと対象期間

「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づき策定するもので、町の総合的な振興と発展を目的とした「第5次長期振興計画」との整合性を図るとともに、「板柳町人口ビジョン」を踏まえ、人口減少の克服と町の創生を目的として、平成27（2015）年度から平成31（2019）年度までの5年間の具体的な戦略を示す計画として位置づけます。

3 「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進

「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる施策を推進するためには、県や関係機関との連携や近隣市町村などによる広域的な取り組みが必要となります。

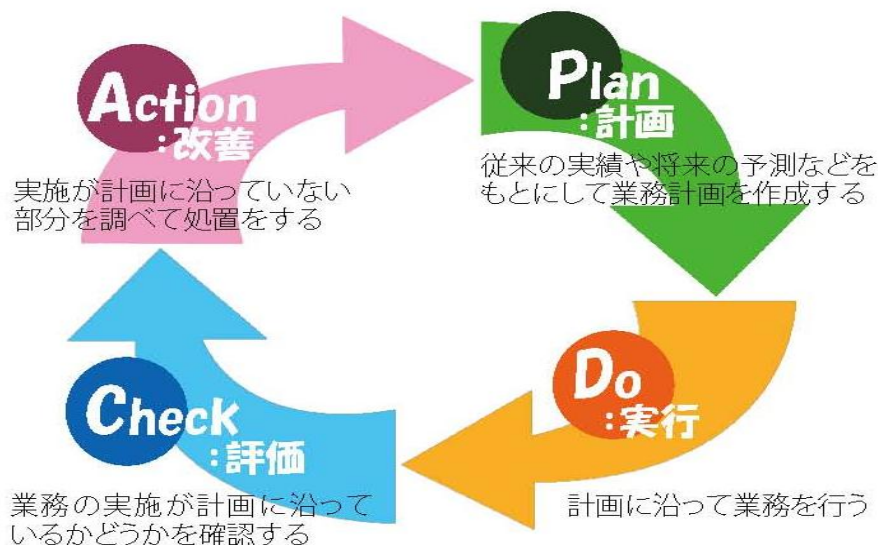
また、「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実現に向けて、町民をはじめ団体などと相互に協力しながら計画を推進します。

4 PDCAサイクルの確立

「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進行状況の管理及び実施状況の点検評価については、「板柳町まち・ひと・しごと総合戦略会議」において行い、今後の対策を講じていきます。

また、「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進行状況を重要業績評価指標（KPI）で検証し、進捗状況に応じて見直しや予算編成・事業実施への反映も見据えた点検・評価も併せて行い、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）のサイクル（PDCAサイクル）によって運用していきます。

■PDCAサイクルの概念図



第2章 政策分野と基本目標

1 にぎわいに満ちたまちづくり(社会減対策)

近年、町の社会増減は、毎年 100 人前後のマイナスが続き、男性、女性ともに 10 歳代後半から 20 歳代の転出が多く、15～19 歳の転出超過が最大となっています。

この社会減は、若年者が進学や就職を機に首都圏や県外、他市町村へ転出していることが主な要因と考えられます。

進学や就職などによる一定の転出はやむを得ないため、Uターンで戻ってくる人たちのための環境づくりや魅力ある町づくりを進め社会減の抑制を図る必要があります。

また、町の魅力を積極的に発信し、首都圏等の人材の移住を促進する必要があります。

(1) 未来につなげる産業づくり

町外への転出の抑制や町外からの移住を進めるため、生活の基盤となるしごとづくりとして、町の基幹産業である農業への就農促進や商工業の振興を図ります。

基本目標	現状値	目標値(H32)
新規就農者数 (経済課調べ)	4 人 (H26)	現状より増加
町特産品売上高 (ふるさとセンター調べ)	343,473 千円 (H26)	現状より増加
商工会新規加入数 (商工会調べ)	9 件 (H26)	現状より増加

(2) 住みたいと思えるまちづくり

首都圏等の人材の受け入れや若い世代の定着を図るため、魅力ある生活環境づくりや人にやさしい社会環境づくりを進めます。

基本目標	現状値	目標値(H32)
板柳町に住み続けたいと感じる割合 (企画財政課調べ)	35.3% (H27)	50%

2 元気いっぱいのまちづくり(自然減対策)

近年、町の自然増減は、毎年100人前後のマイナスで推移していましたが、2013年には出生数が80人を下回った上に死亡数が多かったため、自然増減は、マイナス170人となりました。

自然減の主な要因は、未婚化や晩婚化、子育てにかかる経済的負担の不安から出生数が減少し、合計特殊出生率が低水準で推移していることや、人口構造の高齢化によって死亡数が高水準で推移していることがあげられます。

結婚適齢期の独身男女の出会いの場を創出するなど、未婚・晩婚化対策の取り組みや子育て世帯への経済的支援の充実が必要です。

また、高齢化が進むことによって、今後の要支援・要介護認定者の増加も見込まれることから、将来を見据えた高齢者の健康づくりに向け、若い頃からの生活習慣の改善や高齢者の介護予防等による寿命の延伸に向けた取り組みが必要になります。

(1) 地域で支える家族づくり

町の宝「子ども」たちが、町で生まれ、希望を持って成長し、その希望を実現するための環境づくりや、若い世代の結婚・妊娠・出産・子育てなどを支援していきます。

基本目標	現状値	目標値(H32)
合計特殊出生率 (健康福祉課調べ)	1.35 (H26)	現状より増加

(2) みんなで取り組む健康づくり

町民寿命の延伸による人口減少スピードの抑制により、生産と消費の拡大による経済の維持、活性化が見込まれることから、町民一人ひとりの健やかな暮らしや、スポーツを通じた健康づくりなどを促進します。

基本目標	現状値	目標値(H32)
平均寿命 (青森県市町村別生命表)	男 77.4 歳・女 86.0 歳 (H22)	現状より延伸

第3章 政策パッケージ

1 未来につなげる産業づくり

(1) 農業の持続的な発展

○現状と課題○

町の基幹産業である農業は、恵まれた自然や地の利を生かし、従事者の取り組みや各農業振興施策等によって発展してきましたが、従事者の高齢化、後継者問題、米価の下落、燃料や肥料の価格高騰等厳しい状況が続いています。

○今後の方策○

地域の農業を維持・発展させるため、従事者自ら技術力・経営力の向上に努め、効率的で安定した経営を実現することや、農産物の価格向上、地産地消などを推進し、地域全体で農業の振興に取り組みます。

町内、町外の新規就農希望者への情報提供や地域一体となったサポート体制の充実、将来の農業を担う人材を育てるため、子どもたちが農業に関心を持つ環境づくり、意識醸成を図ります。

○主な個別施策○

- ・新規就農希望者が就農しやすい体制づくりと、困った時に助け合える仲間づくりを支援します。
- ・耕作放棄地の拡大を防ぐため農地の維持管理や従事者への集積を推進します。
- ・トレーサビリティシステムを確立し、消費者が求める安全で安心な農作物の供給を推進します。
- ・地域の農業を守る集落営農組織の設立や省力化を推進します。
- ・農繁期の労働力不足を解消するため、学生アルバイト、パート勤務希望者等の労働力を活用するしくみづくりに取り組みます。
- ・家族経営協定の普及促進、農業経営の法人化を支援します。
- ・栽培管理技術の向上と戦略的な取り組みにより、板柳ブランドの確立に努めます。
- ・土づくりの取り組みを推進し、農産物の付加価値を高めます。
- ・稲わらやりんご剪定枝などを有効に活用する取り組みを推進します。
- ・災害、病害虫、有害鳥獣に負けない強い農業経営を推進します。
- ・りんご新品種の開発に取り組みます。
- ・経済情勢、消費者ニーズの変化に適應できる農業経営を推進します。
- ・農家の産直販売を推進し、地産地消の拡大と収入向上に努めます。
- ・子どもたちが農業に触れる機会の拡大を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (H32)
トレーサビリティ普及率 <small>(りんご防除日誌提出率)</small> (経済課調べ)	76.4% (H26)	現状維持
果樹共済加入率 (経済課調べ)	62.1% (H26)	現状維持
認定農業者数 (経済課調べ)	333 人 (H26)	現状維持

(2)地域の元気としごとづくり

○現状と課題○

現在、町に住んでいる若い世代や、進学、就職などで町を離れている若い世代などが、生まれ育った地元で就職し、安心して子どもを産み育てるためには、生活の基盤となるしごとづくりとして、商工業や観光の振興を図る必要があります。

○今後の方策○

地域に新たなしごとを生みだし、地元雇用の拡大や地域経済の活性化につなげるため、起業しやすい環境を整備するとともに、商工業の担い手育成や研究開発などを支援し、首都圏等からの消費や投資を呼び込めるような産業を育成します。

また、東アジアで評価の高いりんご加工品を世界で競争できる板柳ブランドとして確立するなど、地域の特性を生かした町特産品の開発や販路拡大をめざします。

りんごのもぎとり体験などの農業体験を通じ、グリーンツーリズムを推進し交流人口に拡大に取り組みます。

○主な個別施策○

- ・ふるさとセンターをりんご産業、観光の拠点として最大限活用します。
- ・りんごをはじめとした、町特産品を国内外で競争できるブランドに強化・育成します。
- ・りんごを原材料とした様々な加工品開発を推進します。
- ・新しい町特産品の開発・販路開拓を支援します。
- ・農業、商工業などの異分野が連携したビジネスを応援します。
- ・空き店舗の活用を支援します。
- ・中央アップルモールを活用するなど、「りんごの里いたやなぎ」らしい特色のある商店街の活性化策を推進します。
- ・商工業者の安定した経営基盤づくりや、後継者の育成に努めます。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (H32)
製造品出荷額等 (経済産業省「工業統計調査」)	307,015 万円 (H25)	現状より増加
ふるさとセンター利用者数 (ふるさとセンター調べ)	15 万 6 千人 (H26)	現状より増加

2 住みたいと思えるまちづくり

(1) 人材の還流・定着の促進

○現状と課題○

近年、若い世代の転出超過により、社会減が継続しています。

進学や就職等による一定の転出はやむを得ませんが、町内の学生など若い世代が、地元での就職を望んでも難しく、町外で就職せざるを得ない状況があります。

○今後の方策○

人口減少に歯止めをかけるため、進学や就職で一度地元を離れた若い世代や、地域で必要とされる首都圏等の人材の受け入れを促進します。

町の魅力を広く情報発信し、地域の活力を向上させるため、五所川原市と弘前市の中間に位置した町の立地などを生かしながら、子育てを担う若い世代を中心に定住促進を図ります。

○主な個別施策○

- ・ 子育てを担う若い世代を中心に町への定住を促進します。
- ・ 町の魅力を広く情報発信します。
- ・ 町の文化や歴史に誇りを持つ子どもを育てる環境づくりを推進します。
- ・ 空家の購入等を推進し、中古住宅の活用を促進します。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (H32)
転出超過数 (総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態 及び世帯数に関する調査」)	▲113 人 (H25)	現状より減

(2)防犯・防災対策の推進

○現状と課題○

東日本大震災を経て、災害に対する不安や災害時支援への関心が高まっている中、住み慣れた地域で安心して暮らすためには、災害時の住民への情報伝達等、被災の影響を最小限にとどめるためのしくみづくりが必要です。

また、近年は、高齢者をはじめとする町民を狙った詐欺などの犯罪が増加していることから、未然防止等の対策が必要です。

さらに、車社会の進展とともに交通事故も増加しており、交通安全対策も不可欠です。

○今後の方策○

一人暮らしや要介護状態にあるなど、災害時に一人では避難が難しい高齢者等の現状を把握し、日頃の隣近所の付き合いの中から災害時に助け合いができる体制の整備に努めます。

地域のつながりによる防犯を強化し、関係機関との連携を図りながら、犯罪被害の発生を未然に防ぐ取り組みを推進します。

自動車や自転車の安全運転の啓発を進めるとともに、交通事故などの危険から身を守れるよう、高齢者や子どもをはじめ住民への交通安全に対する意識強化を図ります。

○主な個別施策○

- ・防災・防犯意識が高く、高齢者・一人暮らしの方をはじめとする町民が安心して暮らせる町にします。
- ・隣近所が協力して避難する体制づくりに努めます。
- ・地域住民の理解を深めながら、消防団員の確保を図ります。
- ・高齢者や児童生徒をはじめとする町民の交通安全を推進します。

重要業績評価指標(KPI)	現状値	目標値(H32)
防災・防犯面に不安がないと感じる割合 (企画財政課調べ)	16.9% (H27)	50%

(3) 快適な生活環境の推進

○現状と課題○

すべての人が、安全で快適に生活していくため、道路、公園、公共交通機関、公的建築物等のバリアフリー化やユニバーサルデザインによる町づくりを進める必要があります。

高齢社会が進み、高齢者の生活や活動の中で、日々の買い物や冬期間の除雪などの問題が顕在化しています。

○今後の方策○

高齢になっても、また、心身に障害のある方でも、すべての人がのびのびとゆとりを持って生活できる環境づくりに努めます。

また、交通手段の確保や冬期間の除雪作業における高齢者等への支援を推進します。

○主な個別施策○

- ・ 快適な冬の暮らしのできる町をめざします。
- ・ 除雪ボランティアなど、地域住民の自発的活動を支援します。
- ・ 高齢者や障がいのある方をはじめ、交通手段の少ない方に対応するしくみづくりを進めます。
- ・ 徒歩圏内外の買い物ニーズに対応した民間活動によるしくみづくりを支援します。
- ・ 生活交通路線として必要なバス路線の確保・維持を図ります。
- ・ 環境意識、温暖化防止意識が高い町にします。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (H32)
除雪サポート活動モデル事業活動実績 (建設課調べ)	13 町内会 延べ 235 回 (H26)	18 町内会 延べ 300 回

3 地域で支える家族づくり

(1)結婚・妊娠・出産・子育てサポート

○現状と課題○

将来、親となる世代の、結婚・妊娠・出産・子育てへの関心を高めるために、子どもの頃から赤ちゃんや年下の子どもとふれあう機会をもつことは大変重要なことですが、少子高齢化・核家族化が進み、乳幼児に接する機会が少なくなっています。また、子育てへの経済的負担の心配などから、理想とする子どもの数を叶えられない人が増えています。

さらに、生活環境、価値観の多様化が進む中、晩婚化、非婚化による未婚率の上昇が進んでいます。

子どもを安心して産み、ゆとりをもって健やかに育てるためには、保健、医療、福祉、教育の各分野間で連携することが必要です。

妊娠・出産から乳幼児期における健康診断や訪問指導、健康相談等の充実を図り、疾病や育児問題を早期発見・予防できるよう、きめ細やかな対応かつ総合的な環境づくりが必要です。

○今後の方策○

乳幼児とのふれあいや育児体験を通じて、子どもを産み育てることの意義を学習する機会を提供し、結婚・出産・子育ての大切さについて啓発していくとともに、次代の親となる基礎を形づくる取り組みをしていきます。

また、結婚を希望する男女の出会いの場を支援していきます。

今後、誰もが安心して子育てできるよう保育サービスや放課後児童クラブの充実を目指すとともに、地域の人々が支え合える環境づくりを推進していきます。

○主な個別施策○

- ・乳幼児とのふれあいや育児体験の機会を提供します。
- ・結婚を希望する男女の出会いの場を支援します。
- ・「町の宝」である子どもの出生を祝福します。
- ・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援により、妊婦及び乳幼児、子どもの健やかな生活を推進します。
- ・子ども・子育て支援事業等の子育て支援サービスの充実を図ります。
- ・安心して子どもを産み、育てられるための経済的支援や、保育サービス、放課後児童クラブの充実を図ります。
- ・不妊に対する相談と支援の体制を整えます。
- ・子どもが安全に遊べる環境づくりや体制づくりを進めていきます。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (H32)
子育ての環境や支援への満足度 (健康福祉課調べ)	就学前:61.0% 小学生:58.7% (H25)※	現状より増加

※ 「子ども・子育て支援事業計画」アンケート「子育ての環境や支援への満足度」
1 (低) ~5 (高) の3~5 を選択した割合

(2)人材育成及び確保

○現状と課題○

近年、ネット社会化、核家族化、少子化、地縁的なつながりの希薄化など、家庭を取り巻く社会情勢は大きく変化してきており、地域や家庭における教育力の低下が指摘されています。

また、地域の生涯学習活動などの指導者の不足も課題となっています。

町では、毎月30日を「ノーテレビ・ノーゲーム」の日と定めるとともに、子どもたちが、読書を通じ、豊かな心を育むため、「読書のまち」を宣言し、家族の絆を深める「家読^{うちどく}」を推進しています。

○今後の方策○

子どもたちを健全に育成するため、地域の教育力の向上を図ります。

また、町の子どもたちが将来、国内外で活躍できる人材に育つよう姉妹都市や友好都市に派遣し、見聞を広める機会を提供します。

子どもから高齢者まで各年代の学習欲求を満たせるよう、機会や情報を提供するとともに、保護者をはじめとして、地域の人々の理解と協力を促し、生涯学習活動に必要な人材確保に努めます。

○主な個別施策○

- ・郷土に対する誇りと愛着を持ち、国際性豊かな人材育成を進めます。
- ・生涯学習活動等の指導者の養成を支援します。
- ・各種集会施設などを有効活用し、生涯学習活動を支援します。
- ・時代変化に即した、充実した教育環境づくりを進めます。
- ・子どもの発達段階に応じたキャリア教育を進めます。
- ・読書に関する活動を充実し、さらに推し進めていきます。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (H32)
講座、教室の年間延べ開催回数 (生涯学習課調べ)	147回 (H26)	現状より増加
町民一人当たりの図書貸出冊数 (生涯学習課調べ)	1.2冊 (H26)	現状より増加

(3)ワーク・ライフ・バランスの推進

○現状と課題○

子育て世代の男性は、労働時間が多いうえ、年次有給休暇の取得率が低く、家事や育児に費やす時間が少ないと言われています。

男女の固定的な家事・育児の役割分担や職場優先の意識を改革し、しごとと生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図っていく必要があります。

○今後の方策○

働きながら安心して子育てできる環境づくりと、広報活動などを通じ事業主、就労者等の意識を啓発します。

○主な個別施策○

- ・男女共同参画を推進し、男女の固定的な家事や育児の役割分担意識の解消を促します。
- ・地域住民や企業を対象に、子育てしやすい就労環境づくりを啓発します。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (H32)
25～44 歳の女性就労率 (国勢調査)	76.2% (H22)	現状より増加
子育てを主に行っている人 (健康福祉課調べ)	就学前: 父母 57.1% 小学生: 父母 60.0% (H26)	現状より増加

4 みんなで取り組む健康づくり

(1) 健やかな生活の推進

○現状と課題○

町の平均寿命は、男女ともに県平均よりは高い状況にありますが、全国的にみると依然として低く、主要な死因であるがんや脳血管疾患・心疾患などの循環器疾患、重大な合併症を引き起こす恐れのある糖尿病の患者数は増加傾向にあり、これらの疾病に対する対策が健康を維持する上で重要な課題となっています。

また、職場や学校での対人関係、育児、将来への不安など様々なストレスからこころの健康を損なう人が増えています。

○今後の方策○

生活習慣病は、自覚症状がほとんどない状態で進行していくことが多いことから、早期発見・早期治療のため、日ごろから自分自身の健康状態に対して関心をもち、年に一回は健康診断を受けるなど、受診勧奨を積極的に進めます。

また、質の高い保健指導を行い、生活習慣病等の予防に努めます。

こころの病気が自殺につながることも指摘されていることから、その予防に取り組みます。

○主な個別施策○

- ・町民一人ひとりが健康づくりを心がけ、健康増進と健康寿命の延伸を図り、健やかな暮らしを送ることができる町をめざします。
- ・がんや脳血管疾患などの生活習慣病予防のため、正しい知識の啓発と生活習慣改善のための保健指導を実施します。
- ・各種健康診断等の受診率向上により、病気の早期発見・早期治療に努めます。
- ・こころの健康づくりのために、必要な相談や支援を受けられる町にします。
- ・関係機関と連携を図り、自殺の防止を喚起し、予防活動の啓発を推進します。
- ・地域医療の機能強化を図るため、広域的な医療機関相互の連携強化に努めます。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (H32)
特定健診実施率 (健康福祉課調べ)	34.1% (H25)	現状より増加
特定保健指導実施率 (健康福祉課調べ)	55.8% (H25)	現状より増加
各種がん検診受診率 (健康福祉課調べ)	胃がん:26.1% 大腸がん:37.6% 肺がん:33.9% 乳がん:17.5% 子宮がん:14.4% (H26)	現状より増加

(2) スポーツを通じた健康づくりの推進

○現状と課題○

日常生活の中で、適度な身体活動や運動を行うことは、生活習慣病の予防など健康づくりにつながります。しかしながら、町内においては、軽度の運動が習慣化されているとは言い難い状況にあります。

また、スポーツ活動は、生きがいづくりの手段として、広く町民に親しまれ、仲間づくりやこれからの地域社会の活性化にも大きな役割が期待されます。

○今後の方策○

誰もが生涯にわたってスポーツを楽しめるよう、スポーツに親しむきっかけづくりを進めるとともに、活動場所の確保など環境を整え、健康づくりやスポーツ活動の推進を図り、地域の活性化に努めます。

日常生活における運動の習慣化を啓発していきます。

○主な個別施策○

- ・子どもから高齢者までスポーツに親しみ、スポーツを通じた交流が盛んな町にします。
- ・子どもたちをはじめとする町民のスポーツ環境の充実を推進します。
- ・各種スポーツ団体の活動を支援し、町民の健康増進に努めます。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (H32)
スポーツ施設の年間延べ利用回数 (生涯学習課調べ)	1,629 回 (H26)	現状より増加
スポーツ大会、教室等の年間延べ開催回数 (生涯学習課調べ)	1,395 回 (H26)	現状より増加
1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している人の割合 (健康福祉課調べ)	18.3% (H26)	現状より増加

(3)健康長寿の推進

○現状と課題○

高齢化が進むことによって、今後の要支援・要介護認定者の増加も見込まれることから、将来を見据えた高齢者の健康づくりに向け、若い頃からの生活習慣の改善や高齢者の介護予防等による寿命の延伸に向けた取り組みが必要になります。

○今後の方策○

医療と介護の両方を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医師会等の医療関係者や介護サービス事業者等の介護関係者との連携を図ります。

また、高齢者がこれまで培ってきた知識や経験を活かして、社会参加する環境づくりを進めます。

○主な個別施策○

- ・町発展に寄与した長寿者を祝福し、町民の敬老精神の高揚を図ります。
- ・高齢者が地域社会の福祉向上、活性化に貢献し、健康で生きがいのある生活の実現を支援します。
- ・健康づくりや介護予防の意識を高め、健康寿命を延ばしていけるよう啓発していきます。
- ・心身ともに健康で、生きがいをもって自立した生活を送ることができるよう、介護予防事業や福祉サービスの充実に努めます。
- ・介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活していけるよう地域社会全体で高齢者を支えるしくみづくりに努めます。
- ・高齢者が冬期間に気軽に交流や活動ができる場や機会の情報提供に努めます。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (H32)
介護保険第1号被保険者のサービス受給率 (健康福祉課調べ)	17.0% (H26)	現状より減少
板柳町シルバー人材センター会員数 (健康福祉課調べ)	54 名 (H26)	現状より増加

資料

I アンケート調査

(1) 調査の概要

◇調査の目的◇

平成 26 年に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、平成 27 年度から 5 年間の「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定の資料とするために実施した。

◇調査の対象◇

調査対象	サンプル数
① 一般 【平成27年6月1日現在、板柳町に住む町民】	1,000人※
② 高校生 【青森県立板柳高等学校の3年生】	98人(全数)

※サンプルについては、対象者の中から、年齢、男女、居住地区等の構成比を考慮した上で、層化無作為抽出法により抽出した。

◇調査の方法◇

- ・一般: 郵送による配布回収。
- ・高校生: 学校を通じて配布回収。

◇調査の実施時期◇

平成 27 年 6 月

◇配布・回収の結果◇

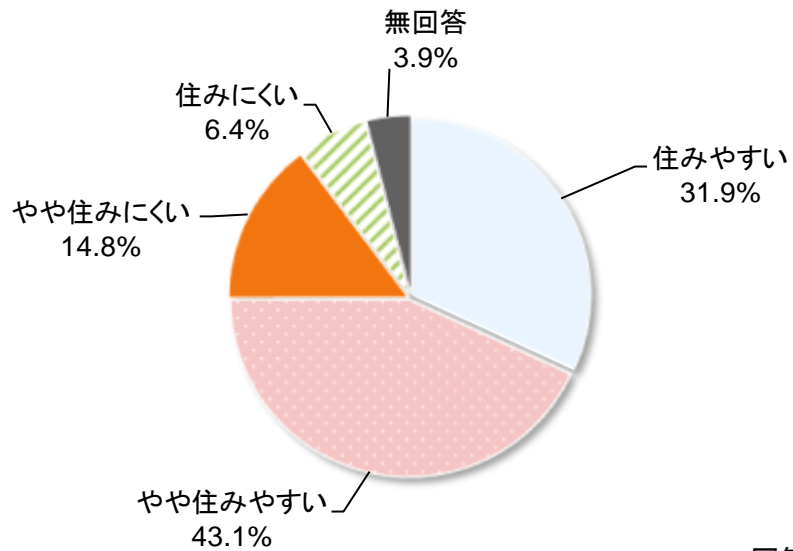
対象者	配布数	①回収数 【回収率】	無効回答 (※)	②有効回答 【有効回答率】
① 一般	1,000件	439件 【43.9%】	0件	439件 【43.9%】
②高校生	98件	98件 【100.0%】	0件	98件 【100.0%】

※無効回答については、白紙またはそれに準ずるもの。

(2)一般対象の調査結果抜粋

1 住みやすさについて

問. あなたにとって板柳町は住みやすい町ですか。

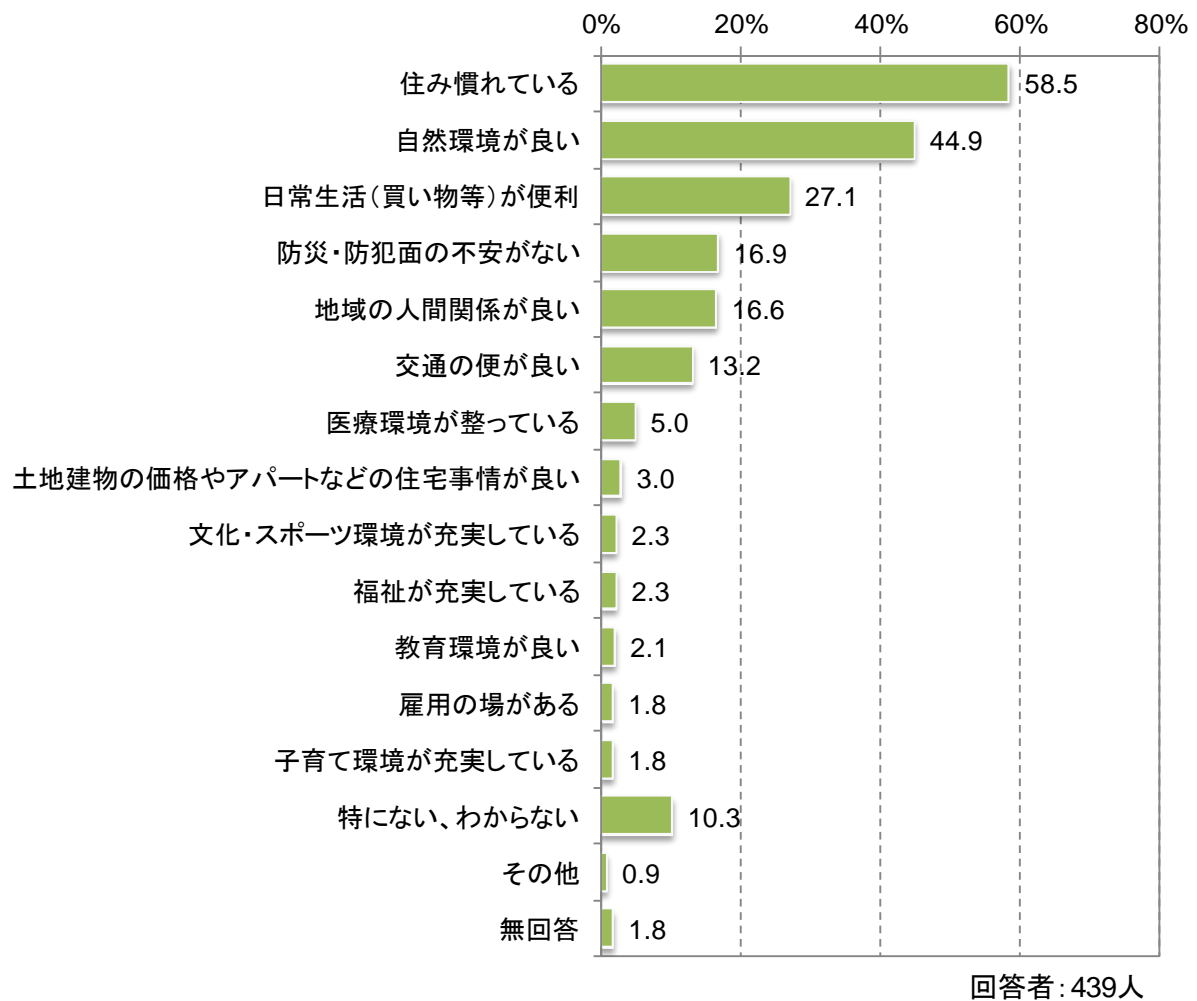


板柳町は住みやすい町かでは、「やや住みやすい」(43.1%)、「住みやすい」(31.9%)を合わせると75.0%が住みやすいと回答している。

また、「やや住みにくい」(14.8%)、「住みにくい」(6.4%)を合わせると21.2%が住みにくいと回答している。

2 板柳町の良いところについて

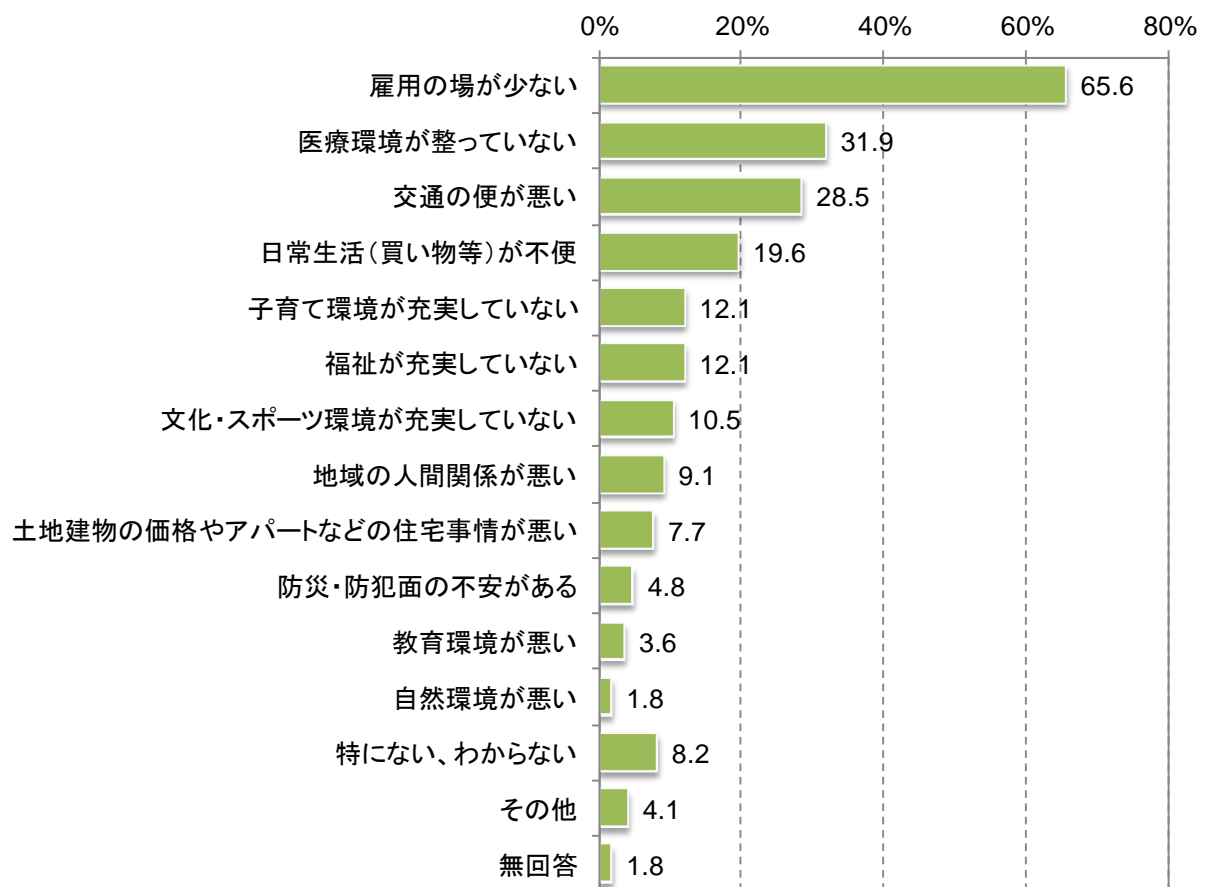
問. 板柳町の良いところはどこですか。次の中から3つ以内でお選びください。



板柳町の良いところをたずねると、「住み慣れている」が 58.5%で過半数を超えて最も多く、次いで「自然環境が良い」(44.9%)、「日常生活(買い物等)が便利」(27.1%)などとなっている。

3 板柳町の良くないところについて

問. 板柳町の良くないところはどこですか。次の中から3つ以内でお選びください。

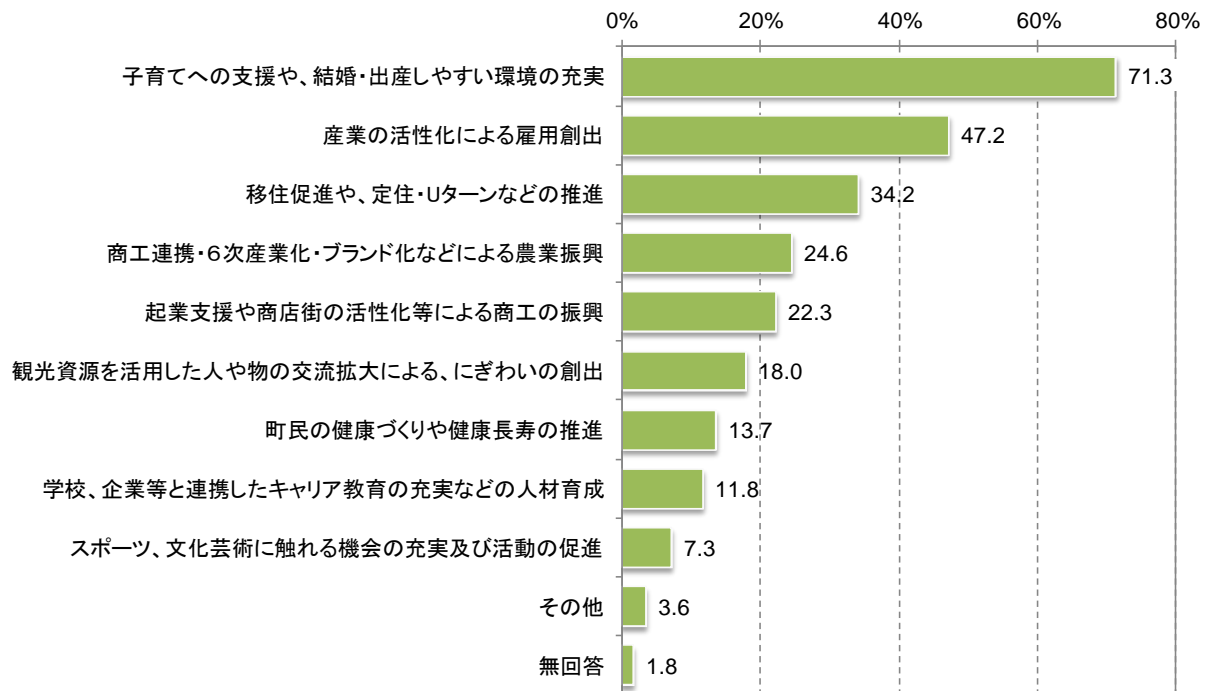


回答者: 439人

板柳町の良くないところをたずねると、「雇用の場が少ない」が 65.6%と最も多く、2位の2倍以上の割合となっている。2位以下を見ると、「医療環境が整っていない」(31.9%)、「交通の便が悪い」(28.5%)、「日常生活(買い物等)が不便」(19.6%)などとなっている。

4 活力ある町を目指すために重視すべきことについて

問. 板柳町がこれから人口の減少を克服し、活力ある町を目指すために、重視すべきことは何だと思いますか。次の中から3つ以内でお選びください。

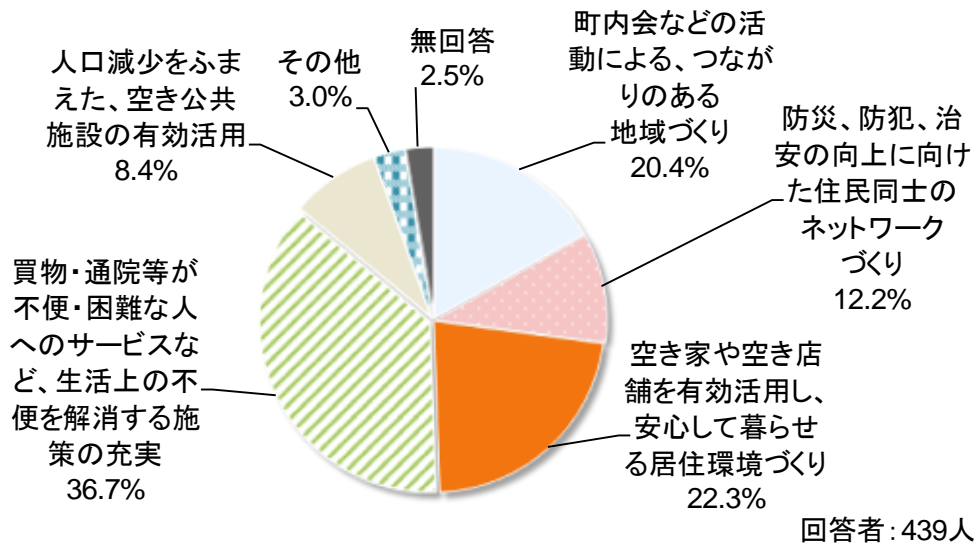


回答者: 439人

活力ある町を目指すために重視すべきことは、「子育てへの支援や、結婚・出産しやすい環境の充実」が 71.3%で最も多く、次いで「産業の活性化による雇用創出」(47.2%)、「移住促進や、定住・Uターンなどの推進」(34.2%)と続いている。

5 安心して暮らせる地域づくりで力を入れるべきことについて

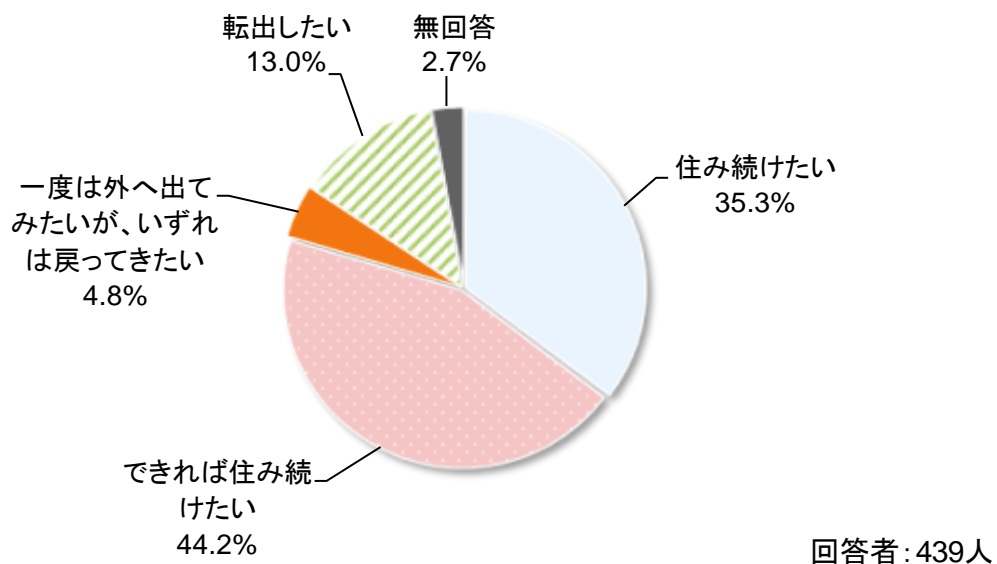
問. 板柳町がこれから人口の減少の中でも安心して暮らせる地域づくりを行う際に、最も力を入れるべきことは何だと思えますか。次の中から1つお選びください。



人口が減少しても安心して暮らせる地域づくりを行う際に、最も力を入れるべきことは、「買物・通院等が不便・困難な人へのサービスなど、生活上の不便を解消する施策の充実」が 36.7%で最も多く、次いで「空家や空き店舗を有効活用し、安心して暮らせる居住環境づくり」(22.3%)、「町内会などの活動による、つながりのある地域づくり」(20.4%)と続いている。

6 板柳町に住み続けたいか

問. あなたはこれからも板柳町に住み続けたいですか。



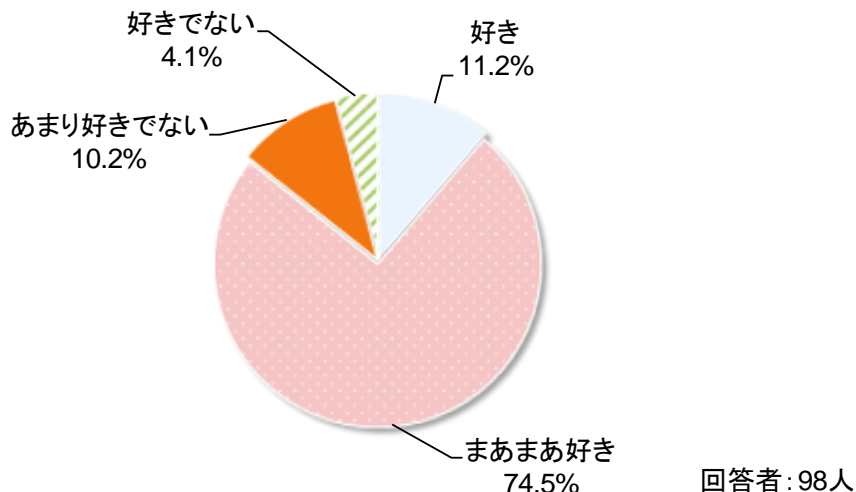
これからも板柳町に住み続けたいかをたずねると、「住み続けたい」(35.3%)、「できれば住み続けたい」(44.2%)を合わせると、住み続けたいという回答が 79.5%で約8割を占めている。

また、「一度は外へ出てみたいが、いずれは戻ってきたい」(4.8%)、「転出したい」(13.0%)となっている。

(3) 高校生対象の調査結果抜粋

1 板柳町が好きか

問. あなたは板柳町が好きですか。

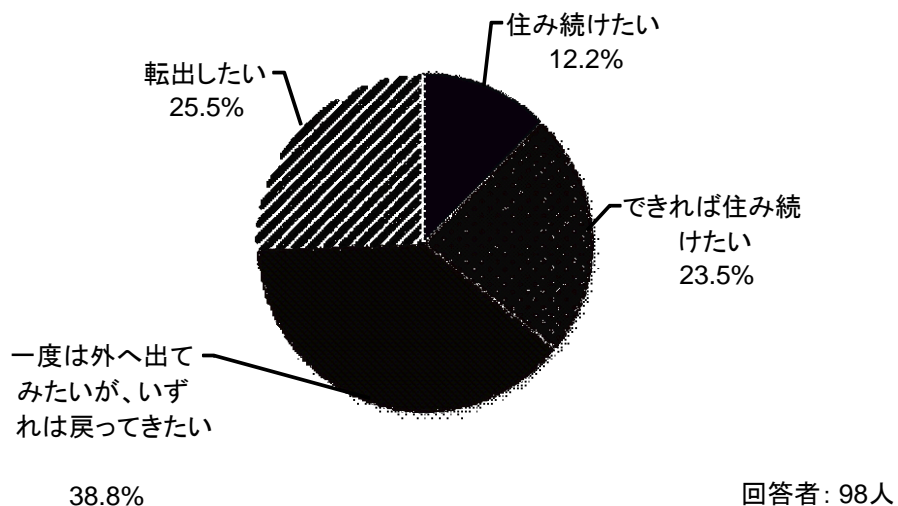


板柳町が好きかたずねると、「まあまあ好き」(74.5%)、「好き」(11.2%)を合わせると 85.7%が好きと回答している。

また、「あまり好きでない」(10.2%)、「好きでない」(4.1%)を合わせるとは 14.3%が好きでないと回答している。

2 いま住んでいる市町村に住み続けたいか

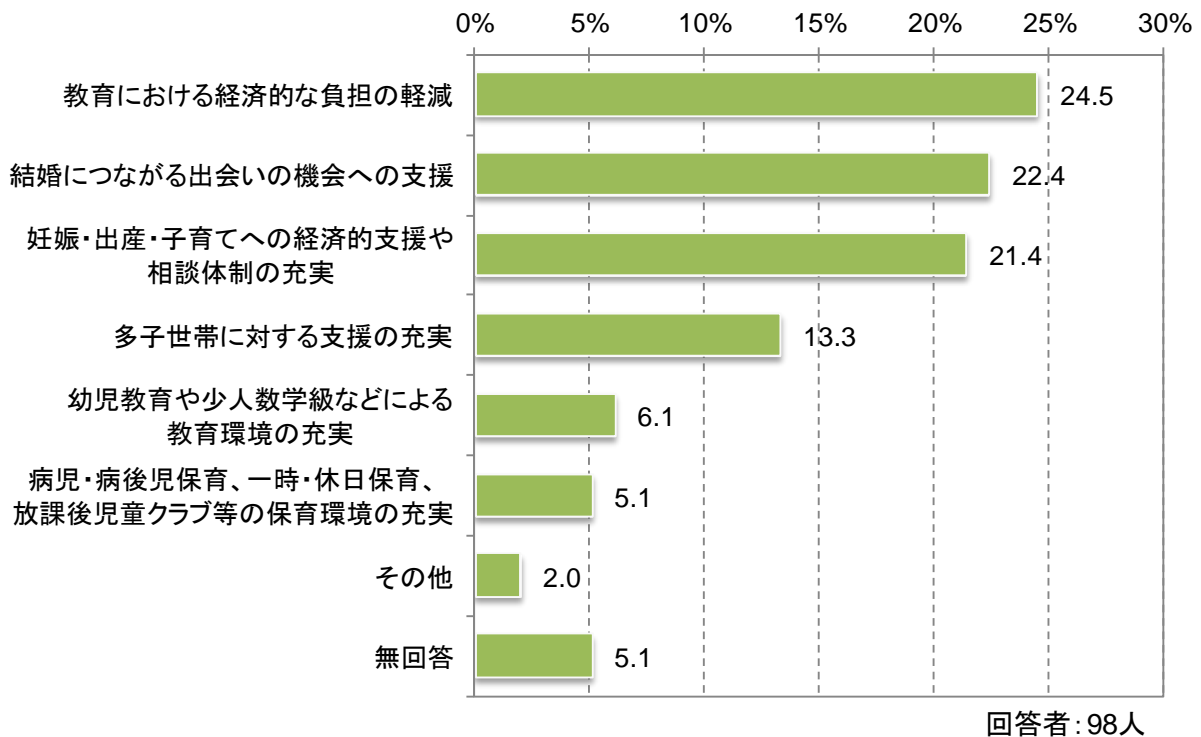
問. あなたはこれからも、いま住んでいる市町村に住み続けたいですか。



今後も今住んでいる市町村に住み続けたいかたずねると、「一度は外へ出てみたいが、いずれは戻ってきたい」が 38.8%で最も多くなっており、次いで「転出したい」(25.5%)、「できれば住み続けたい」(23.5%)、「住み続けたい」(12.2%)となっている。

3 少子化に歯止めをかけるために力を入れるべきことについて

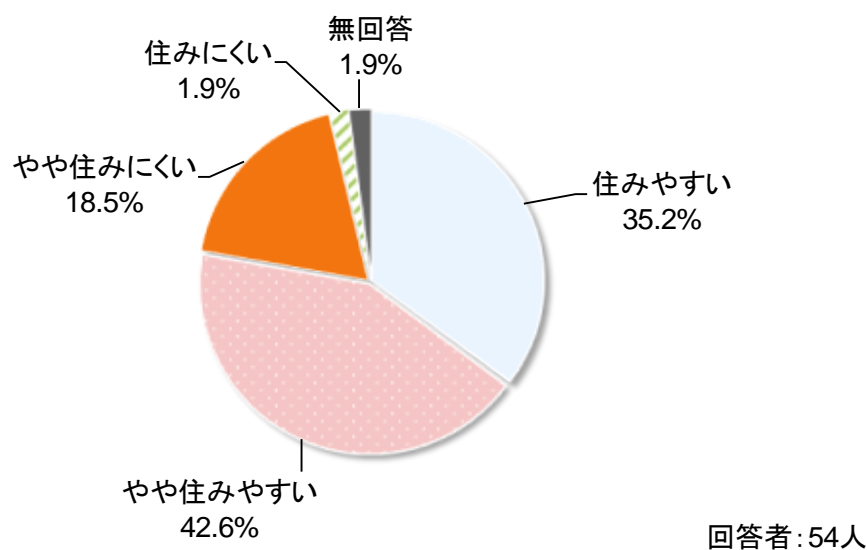
問. 板柳町がこれから少子化に歯止めをかけるために、最も力を入れるべきことは何だと思えますか。次の中から1つお選びください。



板柳町が少子化に歯止めをかけるために最も力を入れるべきことは、「教育における経済的な負担の軽減」が 24.5%で最も多く、次いで「結婚につながる出会いの機会への支援」(22.4%)、「妊娠・出産・子育てへの経済的支援や相談体制の充実」(21.4%)などとなっている。

4 住みやすさについて

問. 板柳町に住んでいる方にのみお聞きします。あなたにとって板柳町は住みやすい町ですか。



板柳町は住みやすい町かでは、「やや住みやすい」が 42.6%、「住みやすい」が 35.2%で合わせると 77.8%が住みやすいと回答している。また、住みにくいという回答(「やや住みにくい」(18.5%)と「住みにくい」(1.9%)の合計)は 20.4%となっている。

Ⅱ 「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」意見交換会

(1)「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」意見交換会の概要

◇「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」意見交換会の目的◇

意見交換会は、4つの政策分野(産業振興対策・定住促進対策・子育て支援対策・町民の健康づくり)に対して、地域における資源や課題の洗い出し、その解決策、将来の地域づくりの展望などについて話し合っていたいただき、それらの結果を、「板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定の資料とするために実施した。

◇参加者◇

町内の各種団体(23 団体)より 40 名が参加。

◇実施日時・場所◇

- ・日時:平成 27 年 6 月 24 日(水) 午後 6 時 30 分から
- ・場所:板柳町多目的ホール「あふる」

(2)意見交換会のまとめ

政策分野	人口減少の原因や課題等	地域でできること	行政でできることや支援等	期待できる成果等
	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の所得アップ ・農業の収入が少ない ・自立経営ができない。所得が少ない。りんご産業の向上。 ・りんごは昔は高級品。今はそうじゃない→昔のままじゃ ・農家の収入が少なすぎる。特に米の収入。 ・農商工収入が少ない ・昔とは異なるりんご販売、消費事情 ・農業は目線を変えていかないと、今後は厳しい。 ・農家に元気になってもらうこと ・少ない土地で農家の収入を増やす ・米の新品種を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・りんごワークとJA、市場と連携する ・都市圏でのトップセールス ・プレミアのついた農産物の開発。マンゴー。 ・りんご丸かじり条例の最大限の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・独自ブランドを作る ・りんごワーク、ブランドを利用する ・りんごワークの観光価値、商業能力の強化 ・町でブランド化の推進 ・町ブランドのPRがほしい ・町の特産等のPRの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・りんご、米のブランド化により所得向上 ・後継者の増につながる ・農家の収入増。認知度アップ ・農家の所得アップ！
			<ul style="list-style-type: none"> ・町での独自の販売ルート確保 ・ネット販売のネットワークを作る 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・農家のグループを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・りんごの町を最大限に活用して、生果だけでなく、加工にも力点を置く ・バイパスに道の駅を作り、りんご生果を主に加工もアピール 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・農業の仕事のイメージを変える 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術交流 ・りんご等の農家への、目に見える支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家のイメージアップ！（りんご、米）
	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足 ・後継者、担い手が少ない ・農家の休みがない ・農家の人の休暇の取り方が下手？ ・農業、商業の負の部分だけが目立つ。良いところもある。 ・仕事はあるけどお金はない ・若い人と高齢者との話し合いがあまりない ・農家のマイナス面だけが強調されているように思う ・農業の魅力が発信できていない ・農業、商業の負の部分だけが目立つ。良いところもある。 ・外からの就農の人は、自給自足が多い。「お金を稼がず、お金を使わない」人が多い？ ・畑仕事等の人がない(少ない) 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性一人だけでも農業できるようにしてもらいたい ・農業の経営改善 ・農業の仕事のイメージを変える ・子育て中、親の職業(農業)の悪い点を言わない 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の後継者の勉強に強力な助成をする ・お試し就農の際の空き家活用 ・農家のイメージアップ！（りんご、米） ・農家組合 ・後継者対策 	
産業振興対策	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な観光資源がほしい ・魅力的な自然的な資源がないなら人工的に作ったらいかがだろうか ・町にお金が落ちない 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光の拠点 ・目標を決めた産業振興 ・ふるさとセンターの温水設備を使い、官民の協力 ・岩木川に屋形船 ・パワースポット作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・りんごワークの観光価値、商業能力の強化 ・売り方(ふるさとセンター)。観光も視野に入れた今後の戦略。 ・ふるさとセンターの名前を変える ・ふるさとセンターの場所がわかりにくい ・ふるさとセンターからバイパスへ道路を通す ・観光スポット ・配水塔バンジージャンプ ・りんご畑のアート 	<ul style="list-style-type: none"> ・町の活気 ・町内外から観光客が増える
	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消(道の駅+加工、地産地消のできる道の駅のような複合的な直売所が足りない) ・道の駅などを作る(子どもの遊べる、レストラン、りんご以外も) ・道の駅がない！ ・グリーンツーリズム・観光農園・オーナー制度 ・りんごの町で観光りんご園が少ないと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光農園 ・産直の品揃え強化 ・地産地消。学校、老人ホームで提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイパスに道の駅を作り、りんご生果を主に加工もアピール ・板柳の豆を作った豆腐や納豆作り 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・食事処などが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・岩木山が見える場所にいいの店を 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・町外から来る人に親切にしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光PRをする ・観光PR 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・働く場所が少ない ・仕事がない ・地元で就職先が少ない ・地元の良い就職先が少ない ・就業機会に恵まれない ・学校を卒業すると、町から出て行く。町に職がない。 ・魅力ある就職先が乏しく、町外に就職してしまふ ・若者の雇用が少ない ・都会と比べて給料が少ない ・給料が都会と比べ、少なすぎる ・最低賃金が安い ・何の仕事をしたいのか ・高卒者、大卒者の県外就職が多い ・若い人の都会への流出 ・都会に就職した子の所に親が世話になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい職をチームで創る。農業でも増収可能(就5) ・経営の勉強をする場 ・既存の企業の活用、理解 ・起業する ・バイオマス設備 ・若手人材バンク 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業支援(コンサル・バックアップ) ・企業誘致 ・誘致企業。製造業とか。 ・一次産業者を育成する ・6次産業の推進 ・広報で板柳の仕事を紹介する相談窓口の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成、リーダー育成 ・雇用が増える ・働く場所が増える ・雇用増につながる ・農家廃業等が減る ・働く場所があるため、定住につながる

産業振興対策	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の衰退 ・町の商店が閉店している方が多い ・小売業の大型店だけに依存していて、地域不活性化が起こっている ・1次、3次 後継者の育て方 ・保守的産業 ・農商工収入が少ない ・農業、商業の負の部分だけが目立つ。良いところもある。 ・商品が少ないので、板柳だけでは用が足りない ・日用品以外の商店が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・町の中心に人を呼び込む市場や企画もの ・街の商店が集って話し合う機会を多く 	<ul style="list-style-type: none"> ・営業マンを雇用する ・営業能力が必要 ・団体が協賛支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増加 ・生活が豊かになる ・就業場所の増加や小売店の活性化 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力のある店、施設がない ・町独自の魅力的な商品が少ない ・ふるさとに魅力がない ・基幹産業は2つあってもいい。りんごとベッドタウン等。 ・町に魅力がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワースポット作り ・岩木山が見える場所にいこいの店を 	<ul style="list-style-type: none"> ・板柳のよい所をPRしていくことが大切 ・町のPR対策 ・板柳町のカラー、色彩がほしい ・町として残したいもの、保存したいもの ・町の名物づくり 板柳の良さをPRする 		<ul style="list-style-type: none"> ・観光客の増加や定住化 ・観光スポット化 ・若い人が増える
子育て支援対策	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚しない人が増えている ・結婚しない人が多い ・未婚の人が多くなっている ・結婚率が少ない(県外から青森に来て結婚する者が少ない) ・結婚相手がない ・結婚の相手に恵まれない ・コミュニティーの場が少ない ・出会いの場が少ない ・若者に結婚についての話し合いの場を持ってほしい ・結婚を(紹介する)人が今あまり見えない ・街コン、頑張ってください ・街コンの出会いはどういうものか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・街コン、イベント開催する ・他市町村とのイベント(まじ婚)差別化 ・世話人の復活がカギ ・世話人の活用 ・出会いの仲介 ・とことん話し合う機会を作る ・×恋愛結婚(2人だけで)○つながりある結婚(周リから) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年代によっての話し合いがほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いの場の増加 ・結婚する人や子どもが増える 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚するメリットが少ないと感じているのでは？ ・未婚者の増、晩婚化 ・結婚しない人が多い(独身主義でないのに機会が少ない)→機会を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚、子育てのしやすい環境づくり ・働く人が豊かになり女性も魅力を感じる 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに金がかかる ・就学にかかる費用が大きいのでは。給食費、修学旅行費等。 ・子どもが少ない(育児費等経済的負担を考えると)→補助 ・子育ての親たちへの助成がない ・子育てするため経済的支援がない ・児童手当が少ない ・貧乏 ・不妊治療費、高すぎ 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ない(育児費等経済的負担を考えると)→ ・補助小学校までの医療費の支援がほしい。 ・医療費支援の充実 ・育児費等経済的負担を考えると)→補助 ・中学までの医療費の無料化 ・赤ちゃん3人目100万ほしい ・不妊治療費の助成 ・子どもが生まれたら2人目学費半額、3人目ただ ・予防接種、ロタリクスも追加してほしい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・出生率向上。希望する人数の子を育てられる。 ・出生率増加 ・人口増加、出生率の増加 ・出生率増加 ・町外からの転入 ・子育て不安解消
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の定員不足 ・保育所の不足 		<ul style="list-style-type: none"> ・教育費の無料化、もしくは助成。 ・給食費を無料にしてほしい ・医師になりたい人に学費を出す 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・町外との交流が必要 ・核家族化 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちの力を積極的に借りていく ・預かり保育の充実等 ・子育てが終わった世代の子育て、ボランティア ・子育て中の親の相談相手ができる人の活用 ・子育てが終わったOBの活用(助け) ・子育てお助け隊(スーパーかっちゃん) ・近所の人が子どもをみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・町を支える年代を助けられる施策(今は介護も子育てもしながら) ・子育て支援。子どもを預かってくれる保母さんを確保 		
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と子供達のふれあいを多くしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども参加型イベントの充実 ・子供服用のフリーマーケット等を開催 ・子供服の譲り合い 				
<ul style="list-style-type: none"> ・娯楽施設や集会所が少ない ・公園が少ない ・子供達の遊び場所が少ない ・児童が集まる場所がない ・児童館がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦さんやお母さんが集まる場所、施設 ・牡丹の森公園も子供達の遊ぶ場所、きれいにしてほしい ・ママカフェ(町が初期支援) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館の建設 ・運動施設等のイベントができる場所の建築 ・公園整備 			

子育て支援対策	<ul style="list-style-type: none"> ・出産できる病院がない。出産が不安。 ・一世帯での出産減少(1人、2人と…) ・子どもを多く産まなくなった。安心して産める環境を作る。 ・現在の社会に合わせた問題提起と解決策を考える 		産婦人科と小児科の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・出生率向上。希望する人数の子を育てられる。 ・出生率増加 ・人口増加、出生率の増加 ・出生率増加 ・町外からの転入 ・子育て不安解消
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に魅力がない ・教育熱心な親は移住する 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ交流をする ・子供連に農作業体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育のレベルアップ ・教育環境の充実 ・小学校から英語をやる ・空き農地を家庭菜園で貸し出す 	
定住促進対策	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な場所に町があるが、空いている住宅地があまりない ・新婚さん用の安いアパートがあると良い ・町外の若い人たちの定住する住宅が少ない ・家を建てる助成がない ・住む場所、情報がない 		<ul style="list-style-type: none"> ・住宅補助(新築、リフォーム) ・住宅造成 ・新築に板柳町の会社を使ったら助成する ・ひとしごと創生総合固定資産等の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・町外からの転入者増 ・転入増 ・転入増加 ・住みやすい人口増加 ・板柳町から出たくないと思う ・定住人口の増加 ・板柳町から出たくないと思う
	永住できる環境づくりが第一		<ul style="list-style-type: none"> ・県への板柳の受け入れ状態を知らせておく ・定年後に田舎暮らしをしたい人たちへの仲介 ・都会に疲れた人を田舎に呼び込む 	
	心を休める場所がない		<ul style="list-style-type: none"> ・町民がくつろげるホール、公園を作る ・町並みの環境整備の支援 ・町の景観条例 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画の検討 ・街の整備 ・駅前開発 ・交通の便を良くする ・近隣へのアクセス道 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・公共費が高い(水道、電気等) 		<ul style="list-style-type: none"> ・町でできる範囲内で、公共料金の値下げへ(高すぎる) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・雪 ・南に比べて暖房費がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪の有効活用 ・空き地の利用(雪捨て場) 	<ul style="list-style-type: none"> ・融雪溝 ・雪対策(融雪溝の建設) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・車社会の不便さ ・交通機関が不便 ・交通の便が悪い(車社会＝お金がかかる) ・若者の車離れ→次々と都市部へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・部落に店がないので、自動車(移動)店をやれば良いと思う 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人はテレビやネットで都会にあこがれる ・外部から見て板柳は住みたいと思える町か? ・もっと楽しい集落にしたい。楽しい思い出がある町内であればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町の認知アップ。そのためには行事を多くすることが必要。 ・移住してきた人を手助けする ・町外から来る人に親切にしたい ・防犯/パトロール ・コミュニティ強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・有名人の利用 ・でかい温泉にしてほしい ・大学を作る ・先を見据えた施策を! 	<ul style="list-style-type: none"> ・町外からの転入者増 ・転入増 ・転入増加 ・住みやすい人口増加 ・板柳町から出たくないと思う ・定住人口の増加 ・板柳町から出たくないと思う
<ul style="list-style-type: none"> ・空き家 ・空き家対策 ・空き家の利用ができていない ・空き家が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の情報提供 ・ボランティア人材グループ(ノウハウが生かせるような、売り手、空き家を貸す ・買い手のシステム) ・相続登記をすすめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家紹介 ・空き家情報の町民への提供 ・空き家物件、空き地のうち、一覧として情報発信を上手に ・空き家の活用。リフォーム資金がない ・空き家の水道等の補修への補助 ・空き家へ住む際の安全性の確保なども大事では? ・畑付きの家を斡旋する ・空き家の利用。町外からの転入者に無料で。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定住化 ・空き家の減少、解消 ・空き家の減少 ・空き家に定住者を集う 	
町民の健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツとかの施設がない ・スポーツ施設がほしい ・福祉対策のメインとなる場所がない 		<ul style="list-style-type: none"> ・運動環境の整備 ・健康センターやジム等の運動施設 ・体育館を造ってほしい ・田んぼマラソン ・りんご畑アスレチック 	
	老後の生きがいづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターの活用、高齢者の収入プラスと人手不足の解消 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・検診受診率向上 ・健康診断、積極的に 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命を伸ばす為、健診受診率を上げる。 ・一民間の保健補助員の増加(協力) ・年1回の健診が単にいやな存在になっていて、楽しく健診に行ける健康ラリーなどを企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーモアを持ったお酒等の制限 ・食生活の指導 ・禁煙の町宣言 	<ul style="list-style-type: none"> ・検診の受診率向上 ・町民の健康作りは進んでいると思う
			<ul style="list-style-type: none"> ・検診を無料にする ・健康優良者の表彰 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・50代、60代で亡くなる人が多い ・少子短命 ・塩分過多の食生活による平均寿命が低い ・缶コーヒー飲みすぎ、カップラーメン食べすぎ 	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の改善 ・禁煙の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・健診の情報発信を増やす ・社保の扶養者に対する検診の場 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均寿命の増加、健康になる ・長寿命化 ・寿命増
	支援の弱さ。障害等級の疑問。			
	巡回。お世話。部落単位。			
			<ul style="list-style-type: none"> ・板病の診察時間を延長してほしい(午後) 	